



田尻町立中学校通信

第10号

いつも心に太陽を

2026.2.6 (金)

## 今年の立春は2月4日(水)です!

立春とは、二十四節気(にじゅうしせき)において、春の始まりです。同時に1年の始まりとされる日です。二十四節気は紀元前の中國で生まれた太陽の動きに基づいた暦で、四季の最初が、立春、立夏、立秋、立冬とされています。日本において2月初旬は、1年で最も寒いころですが、それでも立春は、冬よりぐっと日が長くなっていることを、そろそろ体感できる時期もあります。

3年生の皆さんは、いよいよ卒業式まで1ヶ月と少しのところまで来ました。1・2年生の皆さんは、今年の学年が終わるまで、1ヶ月半になりました。まだまだ寒い日が続きますが、健康に気をつけて、残りの時間を大切に過ごしましょう。

## がんばれ！田尻中3年生！

2月に入りました。3年生の皆さんは、いよいよ受験本番ですね。結果が出るまで、緊張した日々が続きますが、最後まで粘り強く頑張ってください。週明けの火曜日からは、大阪府の私立高校で、入学試験が実施されます。田尻中3年生の皆さん、自分の力を信じて、強い気持ちで試験に臨んでください！皆さんには、今まで、本当によく頑張っていました。田尻中学校の全ての在校生と教職員の皆で応援しています。受験直前の過ごし方について書きましたので、参考にしてください。

**【勉強編】** ·公式や英単語などの簡単な暗記ものを復習する  
·参考書やわからない問題や間違えた箇所をまとめた  
ノートを見返す

**【準備編】** ·受験前夜はとにかく早く寝る ·当日の行動を頭の中でシミュレーションしておく

**【心構え編】** ·普段どおりに過ごす

## 新しい制服のデザインが決定しました！

2月2日(月)の生徒集会で、生徒会役員と後期代表委員が主体となって、「新制服デザインファッションショー」を実施しました。そして、その2日後の2月4日(水)終礼で、Google フォームを活用して、生徒全員による投票を行い、新しい制服のデザインを決定しました。制服改定の目的は、



- ① 性別を問わず着用できる(ジェンダーレス)制服を導入する。
  - ② 時代の流れによる価値観や意識の変化、気候の変化など、学校生活環境の変化に伴い、より着心地の良い制服に変更する。
- の2点です。

事前に、田尻町の地域性や生徒の様子を参考に、制服メーカーさんと協議して作成した3つのデザイン候補を、実際に生徒が着て、その実物を見た中から、皆で投票し決定しました。以下に、三つの候補の制服を紹介します。

- ◆エントリーNo1…海のディープブルーをメインカラーに、生徒の輝きを表現したイエローのラインと校旗のグリーンを組み合わせたシンプルなチェック柄。落ち着いた色合いで上品な印象を与えます。
- ◆エントリーNo2…ブルーとホワイトのラインで港町のイメージを表現したチェック柄。ネイビーベースにすることで、食べこぼしなどの汚れが目立ちにくいのも特徴です。
- ◆エントリーNo3…ブルーとホワイトのラインで港町のイメージを表現したチェック柄。ベースはただのグレーベースではなく、縁起のいい千鳥格子柄を使用。鳥が飛び立つ姿を連想することから、田尻中学校の飛躍を願った想いを表現します。



エントリーNo. 1



エントリーNo. 2



エントリーNo. 3

職員室前に二日間展示した後に、生徒全員で投票し、エントリーNo.2の制服デザインに決定しました。この制服は、令和9年度に入学する生徒から導入されます。来年度、田尻町立小学校6年生になる子どもと保護者の皆様には、小学校の授業参観の時に、実物を展示して見ていただく予定です。



この学校だよりは、田尻町立学校のホームページ内で、田尻町立中学校からの配付文書にアップされますので、こちらからアクセスしていただくと、カラー版をご覧いただけます。



## 1・2年生が英検に挑戦しました！

1月16日(金)の午後に、1年生と2年生が田尻町立中学校で、英語技能検定試験を受験しました。受験にかかる時間は、5級(49分)、4級(67分)、3級(94分)、準2級(107分)、準2級+(110分)、2級(110分)でした。英語科の先生が中心になって、各教室で使用するCDとCDプレーヤーの準備を前日から入念に行い、1・2年生担当の全教員が試験監督になって行いました。

初めて英検を受験する1年生は、とても緊張した様子でしたが、よく頑張りました。2年生は、少し慣れた様子で、上の級に挑戦する生徒がたくさんいました。3級以上は、2次試験が3月1日(日)に行われます。各自で受験会場まで行って受けることになります。合格めざしてがんばってほしいと願っています。



(校長 池本 勝利)

## 今後の予定

2/10(火)	【3年生】大阪私立高校 入試(～11(水)) 園小中合同 PTA 研修会(①10:45②11:45 町教育センター)
2/11(祝)	田尻町教育フォーラム(10:00 町教育センター)
2/12(木)	5限授業
2/13(金)	【1年生】思春期ふれあい講座
2/16(月)	【3年生】特別選抜・高等支援・共生推進 出願(オンライン)
2/17(火)	【3年生】進路懇談(～20(金)) 【1・2年生】学年末テスト 1週前
2/19(木)	【3年生】特別選抜・高等支援・共生推進 入試(～20(金))
2/25(水)	【1・2年生】学年末テスト(～27(金))
3/2(月)	【3年生】特別選抜等 合格発表
3/6(金)	3年生を送る会
3/11(水)	一般選抜 入試
3/12(木)	卒業式予行
3/13(金)	卒業式

## 便利な時代だからこそ大切にしたいもの

物事には必ず利点と欠点の二面性があると思います。どんなに優れている物にでも、課題点があり、この世に万能なものなどは存在しにくいと考えられます。

例えば、原子力。発電に利用すれば非常に効率的に電力が得られ、原料であるウランは一度使用してもなお、プルトニウムとしては繰り返して使えます。

一方、ウランの核分裂は人間の想像を絶するエネルギーを放つため、80年前には原子爆弾として開発され、すさまじい爆撃と熱・放射線によって、過去のわが国では広島・長崎において大量の人命を奪い、生き残った方に対して今も身体面・精神面ともに多大な苦痛を与え続けています。

放射線においては、2011年の東日本大震災で、原発事故による大量の放射線汚染被害によって多くの人が故郷を離れて暮らしています。さらに、原子力発電によって排出される放射性廃棄物は、処

分方法がいまだに定まらず、貯蔵施設で一時保管されるものの、増え続ける一方です。

このように、物事には必ず利点と欠点があります。スマートフォン、オンラインゲーム、SNS、自動車…、一見、便利な面しか思い浮かばない物であっても、使い方によっては、うまくコミュニケーションが取れない、依存症に陥る、体力が低下する、大きな事故につながる、などの落とし穴があります。

同時に、物を世に生み出しそれを使用する私たち人間にも同じように長所と短所があり、その点を十分に意識する必要があると思います。今回、考えてみたいこと。それは、人としての対話力・感性を磨くことの大切さです。

6年も前になりますが、新型コロナウイルスによる感染症拡大によって、世の中の生活スタイルは大きく変化・発展を遂げました。人と人の距離感には細心の注意が払われました。その結果、…人々の生活は大きく変わりました。特に、ICT機器を駆使してのコミュニケーション手段は、予想を超える進化を遂げました。オンラインによる商談や会議が標準化し、教育現場でもオンライン授業による双方向のやりとりが可能になり、授業動画のオンデマンド配信は大学や塾等でもライブラリ化し、受信者のタイミングで視聴が可能です。この技術を開発・普及させた方々に心から敬意を表します。



しかしながら、一方で懸念もあります。伝える手段は急速に発展したもの、伝える側は適切に伝えられているでしょうか。絵文字や画像や動画を用いることで伝わりやすくなるのですが、それとともに添えられる言葉が不十分だったり、不適切だったりすることはないと

でしょうか。

…反対に、伝えたい思いだけが先走って、一度に大量のメッセージを送信し、相手を困らせてしまったり…、という人はいないでしょうか。最近は、「フェイク動画」に代表されるように、AIを使って「人をだます」「人を惑わす」「人を落とし入れる」という目的で偽情報が配信され続けているのです。

この状態が進むと、受け取る側はいかがでしょうか。送られてきた内容を十分に理解しないままに受け取ってしまうと、送り手の意図とは違った形で伝わります。そればかりか、もはや情報の真意がわからず、内容を信じるどころか、人そのものを信用しなくなってしまうのではないかでしょうか。これだけ便利なものに囲まれながら、誤った使い方が、私たちにとって「とても不便なもの・やっかいなもの」になってしまふのです。

人は本来、直接対話を通してこそ、お互いの感情を読み取ることができます。相手の声・目・表情・身ぶり・手振りなどから、何を伝えようとしているかを感じります。同じ「おはよう」でも、元気いっぱいのあいさつなのか、浮かない気持ちでとりあえずあいさつしただけなのか…。場面はさまざまです。相手に気持ちを込めて言葉を送り、受け手が送り手の思い・気持ちを感じとる力…いわゆる「察する力」は、これまで以上に必要になってくるのではないかでしょうか。

時代の変化や技術の進化とともに、私たちは自身の感性も磨き続けていく必要があります。たしかに「オンライン」技術などで直接対話の機会が少なくなるということは、これまで以上に感情を「伝える力」、そして「感じ取る力」を磨かなければなりません。文部科学省は「主体的で対話的な深い学びの実現」を2017年から提唱し、学校教育の中でも重視しています。

進化した技術の二面性を見極め、それに応じた対応が、人間には求められているのです。便利な技術が多様にある現代だからこそ、あらためて人と通じ合う対話力の大切さ、人の気持ちを読み取る感性の必要性を考えさせられます。

(教頭 横井武志)